

「導管部門の中立性確保」に関する意見

< 弊社の状況 >

- 現在、弊社管内の電力市場は新規事業者の活発な参入により、競争が激化しております。弊社管内における新規事業者のシェアは、全国平均の2倍程度に達し、特に競争が確実に進んでいる実態にあります。
- 2016年4月の電力小売部門の全面自由化以降は、ガス会社を含めた新規事業者のさらなる参入が予想され、電力市場の競争はより一層強まる傾向にあると認識しております。
- このような状況下、電力会社の発送配電部門の法的分離を自主的に先取りし、2016年4月からホールディングカンパニー制を導入する予定です。これにより、事業特性によって多様なアライアンスを柔軟に組みやすくなる等の利点を活かし、活力ある総合エネルギー企業に脱皮することで、我が国全体のエネルギー・コストの低減に全力で貢献してまいります。
- また、当然のことながら、弊社は他のエネルギー事業者による電力事業への参入に対しては、決められたルールに則り、公平・公正に対応いたします。

< 「導管部門の中立性確保」に関する要望 >

- 前述したように、電力市場については着実に競争環境が整備され新規事業者の参入が続いておりますが、我が国全体のエネルギー・コストの低減には、エネルギー利用全体の最適化が図れるよう、電力・ガスの垣根を越えた公平・公正な競争環境の整備が不可欠であると考えます。
- 特にガス市場の競争活性化のためには、大手ガス事業者と電力会社など新規参入者が、同等の競争条件で、公平・公正に競争することが必須であり、低圧導管を含めた導管部門の中立性が担保されればこそ、小口・家庭用のお客さまにも低廉なガスをお届けできるものと考えております。
- つきましては、ガスシステム改革小委員会で議論されてきた導管部門の中立性確保に関し、電力の法的分離を実施するのであれば、電力システム改革とガスシステム改革の間で競争環境の構築に差異が生じることのないよう、「大手ガス会社の導管部門の法的分離」についても確実に進め、公平・公正な事業環境の整備を行っていただきますよう、強く要望いたします。
- また、ガスシステム改革の目的である競争の活性化によるエネルギー・コストの低減とお客さまの選択肢拡大のためには、未熟調ガスを送る導管の活用も有用であると考えます。実際にお客さまからは「もっと未熟調ガスを供給して欲しい」とのご要望をいただいております。最大限そのニーズにお応えしていきたいと思っております。
- 導管延伸を促進するための制度的措置を講ずること自体は理解しておりますが、一方で、お客さまの選択肢拡大に資する未熟調ガスの利用拡大は、お客さまのニーズに鑑みても喫緊の課題と認識しておりますので、具体的な制度設計に際しては、当該利用拡大に資する先行的な手当てをお願いいたします。

以上